Biz Cruncher: 生成AI統合による知財戦略のパラダイムシフト

検索・集計ツールから「自律型知財戦略プラットフォーム」への構造転換

Patent Result Co., Ltd. / Strategic Briefing

Gemini Notebook

最大80%削減

特許読解・分析時間の大幅圧縮（図面解説・フローチャート化等の恩恵）。

80~88%削減

AIエージェント処理コスト（Amazon Nova等のマルチモデル最適化による成果）。

約80%導入

国内主要メーカー採用率（国内シェアNo.1プラットフォームの実績）。

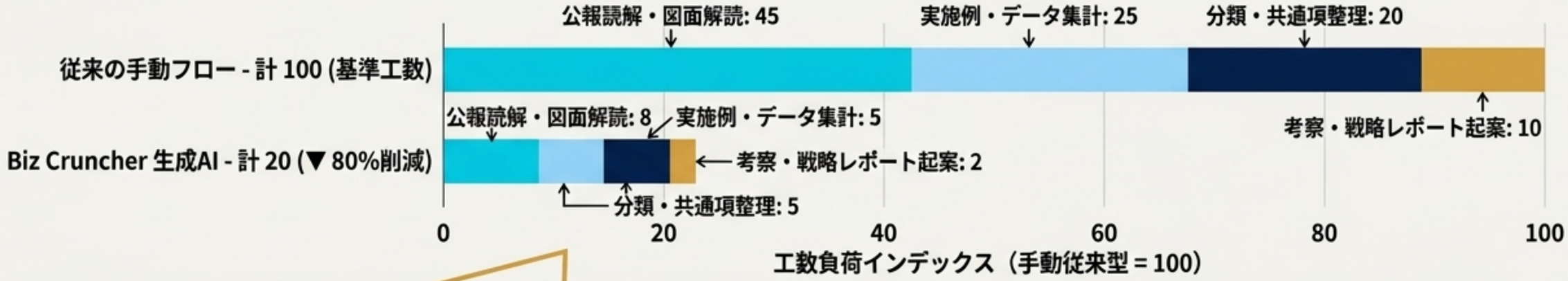
単なるテキスト要約ツールの乱立とは一線を画す、
「パテントスコア」等の定量評価と融合した高解像度なインサイト導出。

Gemini Notebook

従来の手作業 vs Biz Cruncher 生成AI統合

	従来の手作業	Biz Cruncher 生成AI
1	処理モデル：属人的な帰納的推論	処理モデル：AIによる並列処理・自律的計画立案
2	ツールの役割: 受動的な集計ツール	ツールの役割: 能動的な戦略立案プラットフォーム

特許調査・分析工数の負荷比較（従来の手作業 vs Biz Cruncher 生成AI統合）



結論: 全理工数最大80%削減。知財担当者は「集計作業」から「戦略立案」へ注力シフト。

Gemini Notebook



マクロ分析層（自律的戦略立案）

- 機能: AI自動分析&レポート生成機能（Released: 2025/06）
- メカニズム: 自律型AIエージェントによる分析計画立案と体系的レポート自動執筆。

メソ分析層（公報群の横断解析）

- 機能: まとめて分析機能 / AI自動分類機能（2025-2026展開）
- メカニズム: 複数公報の並列一括解析と、ビジネス目的に応じた独自分類軸の全自動設計。

マソ分析層（公報群の横断解析）

- 機能: まとめて分析機能 / AI自動分類機能（2025-2026展開）

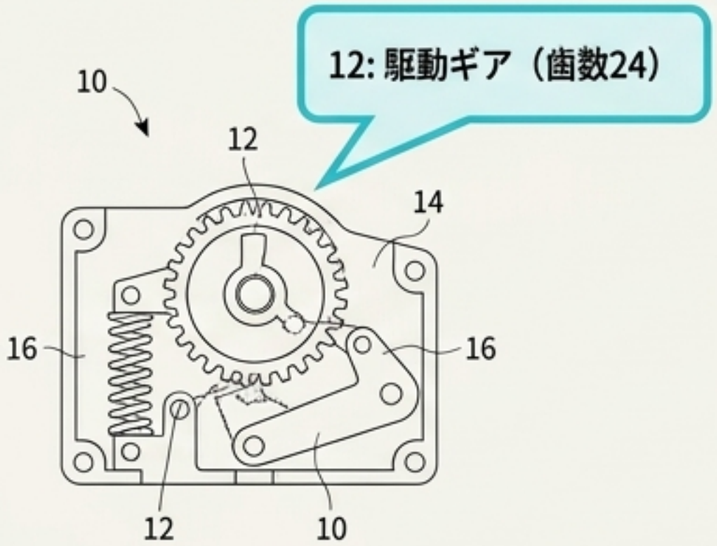
ミクロ分析層（個別公報の深掘り）

- 機能: マルチモーダルQ&A / 図面解説 / フローチャート化（Released: 2024/09）
- メカニズム: 複雑な特許図面、長大なテキスト、散在する実施例データを即時に構造化・視覚化。

Gemini Notebook

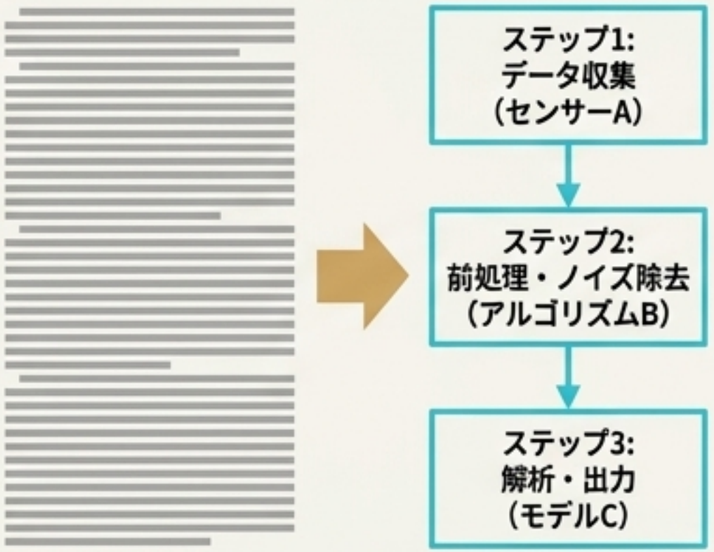
Micro Layer: マルチモーダルQ&Aによる公報読解の劇的効率化

図面のAI解説



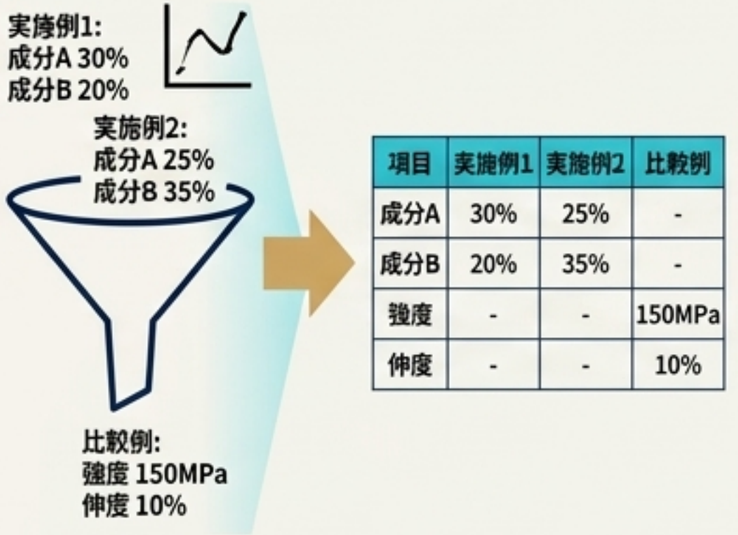
細かな符号・記号を**自然言語**で解説。専門外の技術領域でも構造把握を迅速化。

発明のフローチャート化



長大な製造プロセスや制御ロジックの因果関係を、**直感的 処理フロー**へ自動変換 (Claude 3.5 Sonnet活用)。

実施形態の表整理



項目	実施例1	実施例2	比較例
成分A	30%	25%	-
成分B	20%	35%	-
強度	-	-	150MPa
伸度	-	-	10%

画像認識と**テキスト解析**のハイブリッド。散在する配合比率や物性データを比較可能な**一覧表**へ自動整理。

Gemini Notebook

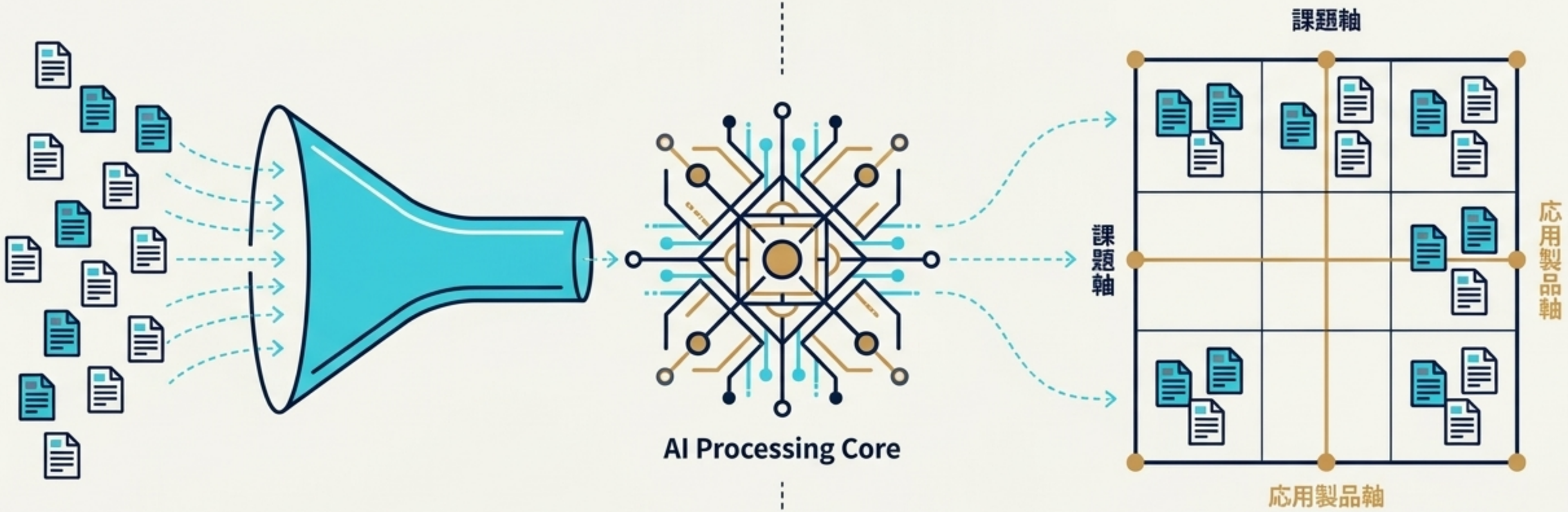
Meso Layer: 複数公報の並列一括解析と目的ドリブンな構造化

まとめて分析機能

数十〜数百件の特許群を同時解析し、
共通する技術課題や変遷を一括抽出。
人間の帰納的推論をAIの並列処理で代替。

AI自動分類機能

対象母集団を読み込み、依頼主の目的に合致した
独自の技術分類軸（課題軸・応用製品軸）を自律設計。
数百件の目視・フラグ付け工数をゼロへ。



Gemini Notebook

Macro Layer: 自律型AIエージェントによる戦略レポート生成

1.プロンプト入力

例：「遺伝子関連分野で最近活躍している企業を特定したい」

2. 分析計画立案

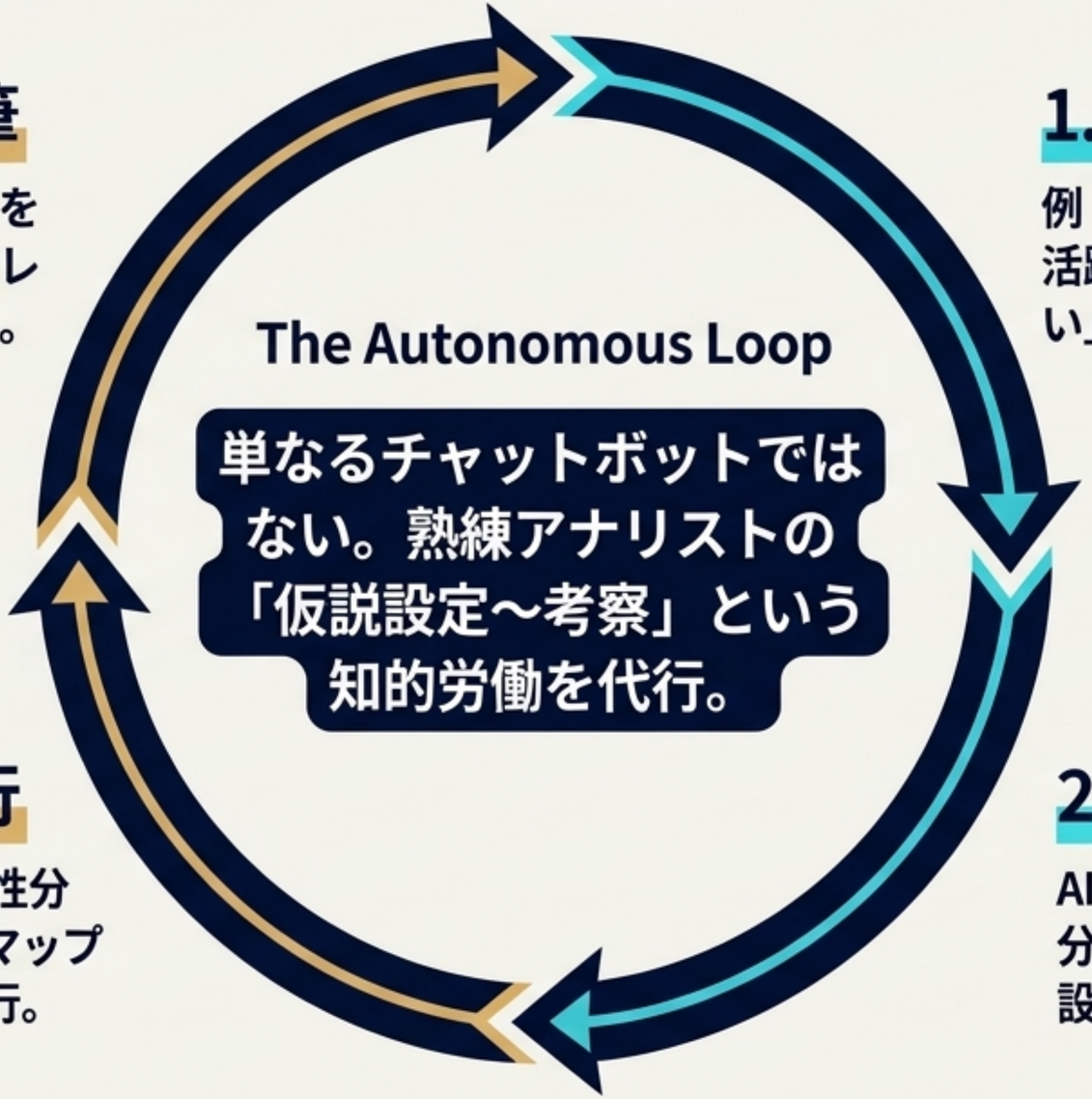
AI自身が検証すべき母集団、分析指標、マップを自律的に設計。

3. 機能駆使・実行

Biz Cruncher内の定量・定性分析メニュー（権利者スコアマップ等）をAIが順次呼び出し実行。

4. 考察・自動執筆

統計データと公報テキストを統合解釈し、体系的な戦略レポートをワンボタンで出力。



Gemini Notebook

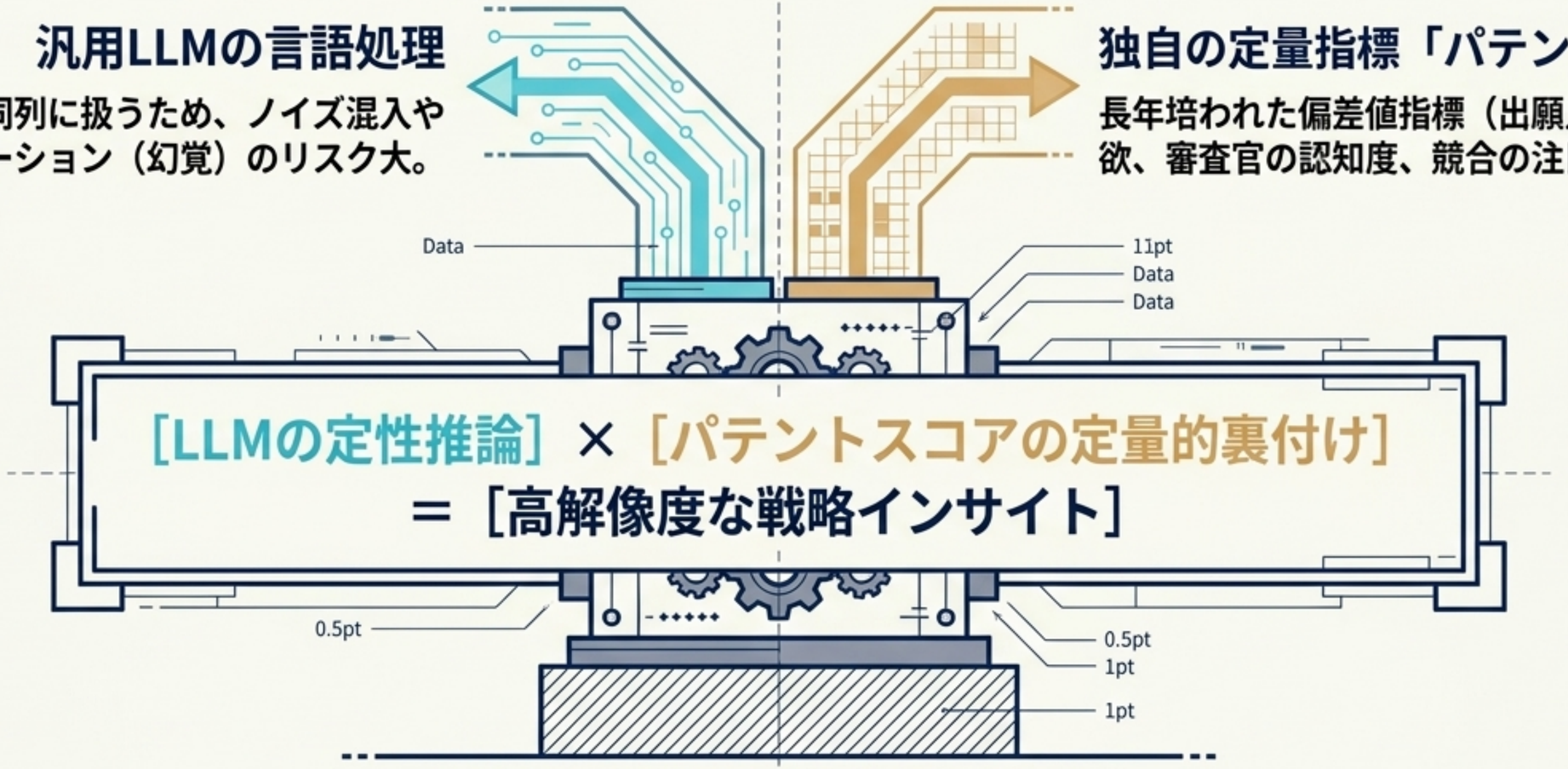
The Secret Sauce: 「パテントスコア」という定量的アンカー

汎用LLMの言語処理

全特許を同列に扱うため、ノイズ混入やハルシネーション（幻覚）のリスク大。

独自の定量指標「パテントスコア」

長年培われた偏差値指標（出願人の権利化意欲、審査官の認知度、競合の注目度）。



［LLMの定性推論］×［パテントスコアの定量的裏付け］
＝［高解像度な戦略インサイト］

重要特許や有力プレイヤーをデータで特定した上でAIが文脈を抽出。
意思決定に直結する真のIPランドスケープを実現。

Gemini Notebook

Case Study: 競合の事業意志を逆算する（CO2吸収・吸着分離技術）



三菱重工業

圧倒的首位（スコア431.7 / 有効165件）。135件継続でアミン系吸収液を牽引。

関西電力

111件中57件が「失効」。AIはこれを単なる件数減ではなく「部分撤退または技術戦略の転換」と推論。

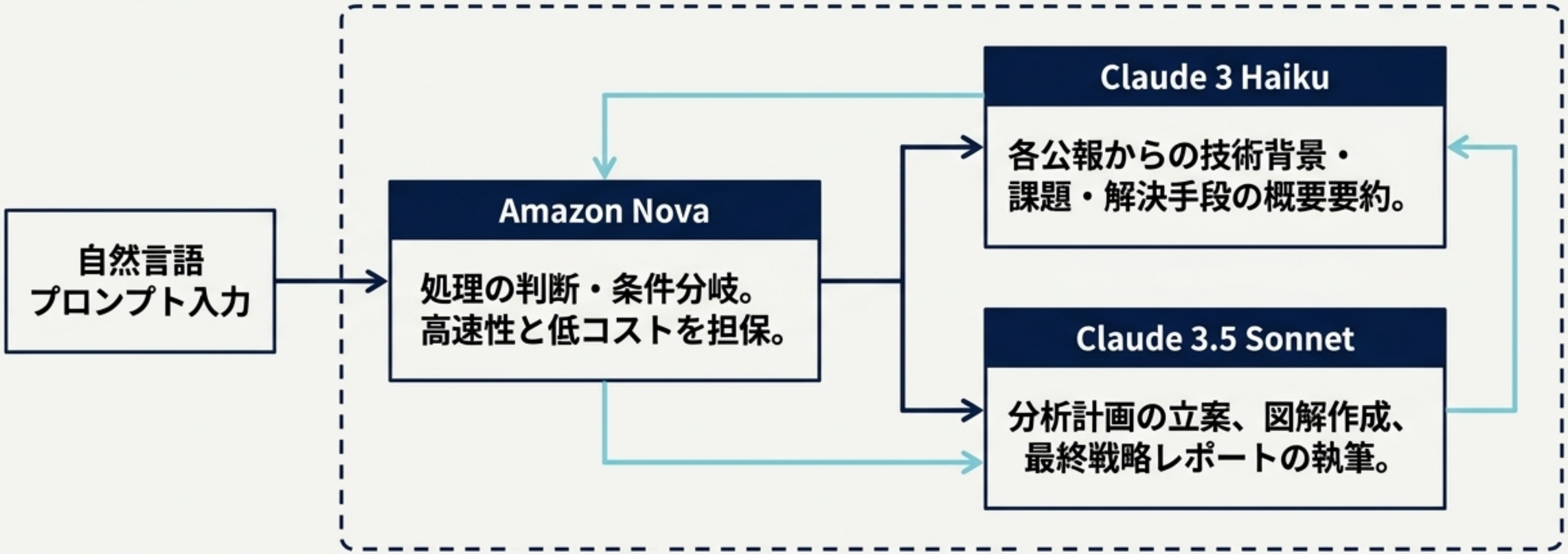
東芝グループ

東芝本体（80件失効）から東芝エネルギーシステムズ（54件継続・5件失効）へ研究開発の重心が明確に移行。

累積出願件数による単純なランキングでは見抜けない「生きた競合インテリジェンス」を、法状態データ×技術テキストから自動言語化。

Gemini Notebook

Architecture:
コストと速度を最適化するマルチモデル・オーケストレーション



高性能モデル単一依存のコスト爆発を回避。最大88%のAI処理コスト削減により、
大量母集団の並列分析を「従量課金を気にせず反復実行」可能に。

Gemini Notebook

Security:
分析プロセスの機密性を守る「ゼロリテンション」要塞

The Core Threat: 公開特許情報だけでなく、「検索条件」や「比較対象（ベンチマーク）」自体が、自社の未公開R&D戦略を推測される為最高度の機密情報である。



Defense 1: ゼロリテンション設計（Amazon Bedrock）	**Defense 2:** 国際セキュリティ認証（ISO/IEC 27017）
入力プロンプト、出願前テキスト、分析クエリは外部AIの学習データとして**一切非利用**。ログも**原則非保存**。**データ残留リスク**を**根本から遮断**。	2026年8月取得。プロバイダ（パテント・リザルト社）とカスタマ（マルチクラウド基盤: AWS/Azure/GCP）の両面を網羅した**厳格な情報セキュリティ管理体制**。

Gemini Notebook

Ecosystem: 「機能の使いこなし」から「目的ドリブンな分析デザイン」へ

Step 1: Global Licensing（導入基盤）

日米特許の定性・定量分析（5万〜15万円/月）。グローバル版による世界主要国の日本語横断検索（20万円/月）。

Step 2: On-Demand Learning（自己学習）

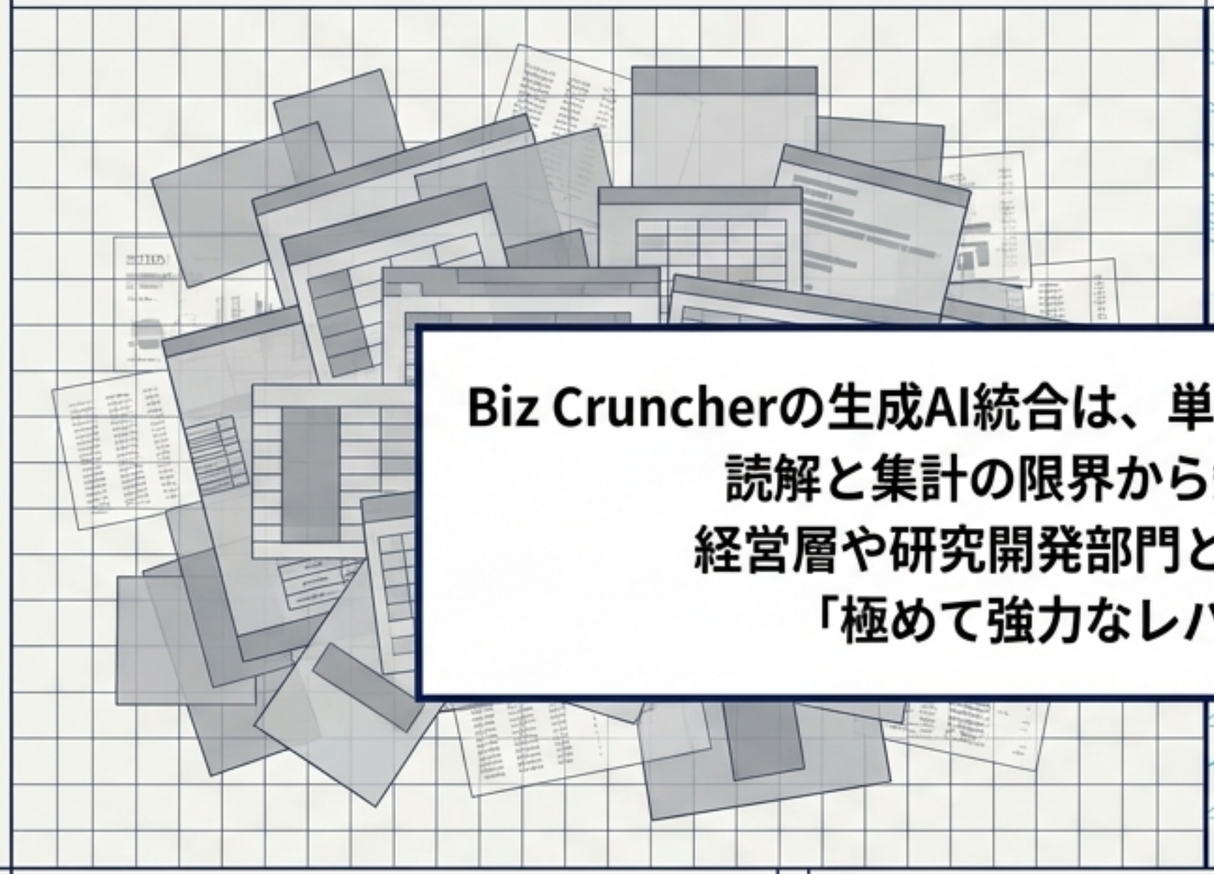
動画マニュアル「さくさく動画ナビ」とデモIDによる常時ハンズオン支援。

Step 3: Strategic Mastery（実践ワークショップ）

単なる操作研修ではなく、「情報洪水に溺れず最小の調査量で最大の成果を導く」ためのプロセス設計実践講座を展開（イーパテント・アクティス社等との協業）。

Gemini Notebook

結論:「エクセル集計の作業者」から「事業戦略のナビゲーター」へ



Biz Cruncherの生成AI統合は、単なる業務効率化ツールではない。
読解と集計の限界から知財担当者を解放し、
経営層や研究開発部門と対等に議論するための
「極めて強力なレバレッジ」である。

Velocity: 3階層のAI統合によるワークフロー完結（最大80%時間削減）。

Precision: パテントスコア×AIによる「ハルシネーションのない」戦略的説得力。

Security: ISO/IEC 27017とゼロリテンションが担保するエンタープライズ運用基盤。

Gemini Notebook

Appendix & Data Sources

- クラウドセキュリティの国際規格「ISO/IEC 27017」認証取得 (DreamNews)
- Biz Cruncherの最新機能と2025年知財・情報フェア出展内容 (Yorozu IP SC)
- 【AIレポート】CO2吸収・吸着分離技術 / 建築物の断熱・遮熱技術 (パテント・リザルト社)
- AI分析 新機能（図面解説・発明をフローチャート化・実施形態を表整理）(パテント・リザルト社)
- 令和５年度 特許情報に係る商用データベースの機能水準に関する調査報告書 (特許庁)

Gemini Notebook